

項目	主な意見	対応方針
基本構想		
泉大津市の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泉大津市の特性に関して様々な視点が示されているが、総合計画全般において、泉大津市の地理的条件、歴史的背景、魅力等、「泉大津らしさ」を踏まえた内容を取り入れ、より市民に伝わりやすく共感が得やすくなるよう表現されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泉大津市の特性に関しましては市民ワークショップ等においても「平坦なまち」や「人のあたたかさ」など多数のご意見を頂戴しております。写真やデザイン・レイアウト、各項目の文章において、「泉大津らしさ」を前提とした表現を引き続き検討してまいります。
広域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政策を検討するにあたっては、人口減少、高齢化の問題を大前提としておく必要があることから、個々の論点を考える上でも広域連携の視点を取り入れていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少社会を見据え、社会情勢の変化に対応する持続可能なまちづくりに取り組むことが重要であることから、隣接する自治体を始めとした広域連携の必要性について加筆いたしました。
住みやすいまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人や若者を含め、多種多様な出会いや繋がりによって、住みやすく、魅力を感じるまちづくりを進めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが「住みたい」「住み続けたい」と思うまちを目指して各種施策に取り組んでまいります。
若い世代の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少・少子高齢化が進む中、泉大津市が維持又は発展していくためには、若い世代の地域活躍が不可欠である。若い世代のまちづくり参画や転入促進を図られたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりの基本理念の一つである「多彩な人材の活躍」において、特に若い世代のまちづくり参画を加筆いたしました。
基本計画		
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本構想における「泉大津市の現状」を踏まえ、「まちづくりの基本理念」や「まちづくりの視点」に沿った内容となるよう検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、基本構想を基盤とし、繋がり意識しながら基本計画となるよう検討してまいります。
指標の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標や個別目標の達成に向けて計画を実施していくにあたり、どのようにして達成に近づくかを示し、評価の対象となる指標に関して、見直されたい。見直しにあたっては、実際に取り組む現場の方針となり得る分かりやすい指標となっているか、数値の改善によって取組の効果が示しているか、個別目標の方向性や現況と課題との齟齬や飛躍がないか、改めて確認されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動指標（アウトプット）と成果指標（アウトカム）の両方においてそれぞれ複数の指標が考えられますが、その代表的なものであり、継続して把握することのできる指標を設定しております。各目標の達成状況を評価するに際して指標は重要な要素の一つではありますが、その数値が示す意味を適宜再確認・検証しながら取り組んでまいります。

審議会の主な意見と対応方針

資料 3

項目	主な意見	対応方針
基本計画：基本目標 1 「みんなが互いに繋がり、理解し、共感しあうことで新たな刺激が生まれるまち」		
個別目標 1 方向性③	<ul style="list-style-type: none"> 指標「デジタル推進に向けた取組件数」がなぜ「多種多様な主体との協働によるまちづくり」に繋がるのか、表現されたい。また、市民活動の活性化に繋がるような実効性のある DX となるよう留意されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティの活性化に向けて、ICT 活用を促進し、情報共有の効率化・迅速化をはじめ地域活動の見える化により、幅広い世代が気軽に参加できるよう支援するとともに、活動の中心となるリーダーを発掘・育成支援を行う必要があります。デジタル化に向けた講座等で地域の発信力の向上や活動の見える化の充実を図ることでき、多様な活動団体へと繋げていくと考えています。また受講者には、講座終了後のアンケート等で今後の活用について等のアンケートで検証してまいります。
個別目標 2 方向性②	<ul style="list-style-type: none"> 指標「男女共同参画交流サロン（にんじんサロン）SNS 登録者数」に関して、登録者の増加が「個性や能力が発揮できるまち」に繋がるか不明瞭であるため、検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> SNS は、「男女共同参画交流サロン」の情報を素早く発信し、市民が素早く情報を受け取ることのできるツールと考えており、SNS 登録者数を増やすことは、男女共同参画における市民意識向上と行動変容を促すという趣旨で設定しております。
個別目標 3 方向性②	<ul style="list-style-type: none"> 「小中学校における外国語学習や ALT との学習」は、「グローバル社会において、活躍できる人財を育成」することにおいて非常に重要な取組であるため、指標として設定されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘を受け、新たな指標として「中学校 3 年生のうち、CEFR A1 レベル相当（英語検定 3 級程度）以上を達成した生徒の割合」を追加します。指標「グローバル人材育成研修に参加した人数」は主な対象が中高生であることから、この 2 指標でその繋がりを表現しております。
基本計画：基本目標 2 「主体的に学び、生涯にわたって学びの環境を自由に選ぶことで成長し続けるまち」		
個別目標 1 方向性②	<ul style="list-style-type: none"> 指標「自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合」は、各種取組の成果を示すものとして適正であるか検討されたい。特に中学校においては各校の特色があるため、留意されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、学力向上プランを掲げて授業改善・学力向上に取り組んでおり、目標値を 100% とすることで力を入れて取り組むため、修正しておりません。また、学力のみの指標とならないよう、多くの視点での教育環境の整備と教育内容の質向上に努め、児童生徒の自己肯定感の向上を図ります。従って「自分にはよいところがあ
個別目標 1 方向性②	<ul style="list-style-type: none"> 指標「全国学力・学習状況調査対全国比」の目標値が高く、教育現場の状況を踏まえ、より現実的な数値に変更されたい。 	

項目	主な意見	対応方針
個別目標1 方向性④	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想総論「泉大津市の教育と文化」に記載のオーガニック食材の給食使用に関して、基本計画個別目標においても連動した表現とし、その特徴を反映されたい。 	<p>とと思っている児童生徒の割合」を指標としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ご指摘を踏まえ、こどもたちの健全な体づくりにアプローチしていることが読み取れる成果指標を設定することが望ましいと考え「学校給食で提供する有機食材の種類数（年間）」を新たな指標として追加します。なお、給食に対する主観的な感想である「給食がおいしいと思うこどもの割合」に対する客観的な指標である「給食残渣率年間平均」はその相互的な関係性から削除しておりません。
個別目標2 方向性①	<ul style="list-style-type: none"> 指標「市民の学びの場所」に関して、場所の整備ではなく、学び自体が活性化されている必要があるため、活動団体数などの学びの活性化が分かる指標を設定されたい。また、学びの成果を示す機会に関して留意されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの機会を増やすためのハード整備として設定しておりますが、ご指摘のとおりソフト面の整備も重要と捉え、引き続き取り組んでまいります。なお、ご提案の「団体数」をはじめとしたソフト面については、大小様々な取組みがあり、指標として画一的に把握することが困難であることから、指標「市内で学ぶ機会が充実していると思う市民の割合」において把握してまいります。
個別目標3 方向性③	<ul style="list-style-type: none"> 指標「週に1日以上、運動やスポーツをしている市民の割合」に関して、理想は3日以上と考えられるため留意されたい。また、スポーツの多様性を鑑み、指標「スポーツイベントの参加者数」に関して、特定のイベントの参加者だけではなく、イベントの種類や実施主体数等を指標とされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> より運動やスポーツをしている市民の増加をもって心身の健康保持・増進に努めてまいります。なお、スポーツの多様性を意識し、主催者数や開催数を増やすという考え方もございますが、多種多様なスポーツイベントがあるため、全てを指標とするのは困難な面がございます。指標項目を増やすのではなく、市主催のスポーツイベントに、運営側として参加された市民の人数を新たに加算することといたしました。
基本計画：基本目標3「みんなが生き生きと、心豊かに健やかに暮らせるまち」		
個別目標2	<ul style="list-style-type: none"> 今後加速する少子高齢化や生産年齢人口の減少によって、認知症高齢者や身寄りのない高齢者への支援と共に、活力ある高齢者の 	<ul style="list-style-type: none"> 本市においても少子高齢化、生産年齢人口の減少が見込まれ、社会情勢は変化していきます。一人暮らし高齢者の増加や社会的な

審議会の主な意見と対応方針

資料 3

項目	主な意見	対応方針
個別目標 2 個別目標 3 個別目標 4	社会参画などが重要となるため、先を見据えた計画を立てられたい。 ・自分らしい暮らしには、「自身が行きたい時に、行きたい場所に行ける」ことも重要であるが、移動支援に関する社会的資源の枯渇が問題になりつつある。先を見据え、移動に関する支援について検討されたい。	孤立など、その他発生しうる社会課題の解決に向け、活力ある高齢者の社会参画等に取り組んでまいります。
個別目標 5 方向性⑤	・指標「救急搬送件数」に関して、救急搬送件数の増加が医療体制の充実に繋がるとは限らず、より適正な救急搬送であったかを表す指標等を再考し、設定されたい。	・当該指標は「公立病院として担うべき役割を明確化し、持続可能な地域医療体制を構築します」という個別目標の方向性の達成度を推し量る活動指標です。公立病院は、民間病院では困難とされる不採算部門である救急医療、災害医療、感染症対策などの政策医療を担います。災害や感染症が発生していない平常時においては、救急医療に係る搬送件数をもって地域医療への貢献度を評価することは妥当と考えています。また、救急医療を含む医療体制が全体として充実しているか否かについては、別に成果指標を設定しております。
基本計画：基本目標 4 「安全・安心を一人ひとりが考え、みんなでつくりあげるまち」		
個別目標 1	・災害が発生した場合の情報伝達に関して、平常時から積極的に周知されたい。 ・また、地域コミュニティに災害対応の担い手がなくなる昼間に発災した場合どのように行動するのか、仕組み構築に取り組みたい。また、自主防災組織の担い手不足を解消するため、小中学校との共創に力を入れられたい。	・ご提案につきましては、避難所の機能強化・防災体制の充実により公助の強化に必要不可欠であると認識しています。ご意見いただきました内容は、個別計画への記載を検討する際の参考とさせていただきます。 ・ご提案につきましては、非常に重要であると認識しており、その仕組等につきましては、個別計画への記載を検討する際の参考とさせていただきます。
基本計画：基本目標 5 「みんなが住みよい環境が整っているまち」		

審議会の主な意見と対応方針

資料 3

項目	主な意見	対応方針
個別目標 4 方向性① 方向性②	<ul style="list-style-type: none"> 重要なライフラインの一つである水道に関して民営化・広域化の動きがあるものの、災害時などでも適切に対応できるよう取り組まれない。 	<ul style="list-style-type: none"> 水道使用量の減少や、技術職員確保が課題となっていることから、健全な経営のため、民間活力を取り入れた広域的な経営を検討しているところ。引き続き、災害対応を含め、安全・安心な上下水道網の構築に向け取り組んでまいります。
基本計画：基本目標 6 「地域資源を活かしたにぎわいが生まれ、再生、発展するまち」		
個別目標 1 方向性②	<ul style="list-style-type: none"> SNS の拡散力を活用することは必要であるが、フォロワーの増加だけでなく、地域に根差した文化や伝統産業に磨きをかけ、魅力向上にも力を入れられたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域で培われてきた文化活動や伝統産業の魅力を再発見し、またその魅力を磨き上げ、さらにその魅力を効果的に発信することで、交流人口や関係人口、ひいては転入者の増加に取り組んでまいります。そのため一部「現況と課題」に加筆するとともに、指標「大阪府外の居住者で、休日に泉大津市に滞在した人数」を追加いたしました。
基本計画：基本目標 7：「新たな力を取り入れ、柔軟にアップグレードし続けるまち」		
個別目標 1 方向性①	<ul style="list-style-type: none"> DX（デジタルトランスフォーメーション）は利便性を高める手段ではあるが、デジタル機器を苦手とする高齢者に対する配慮や丁寧な説明を心がけられたい。また、「個別目標の方向性名」を「利便性の高いサービス」に変更されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでも主に高齢者へのデジタル・デバイス解消に向けたスマートフォン講座などに取り組んでおり、引き続き DX と合わせ、誰一人取り残されないデジタル社会の形成に向け取り組んでまいります。なお、「個別目標の方向性名」を「利便性と質の高いサービス」に修正いたします。